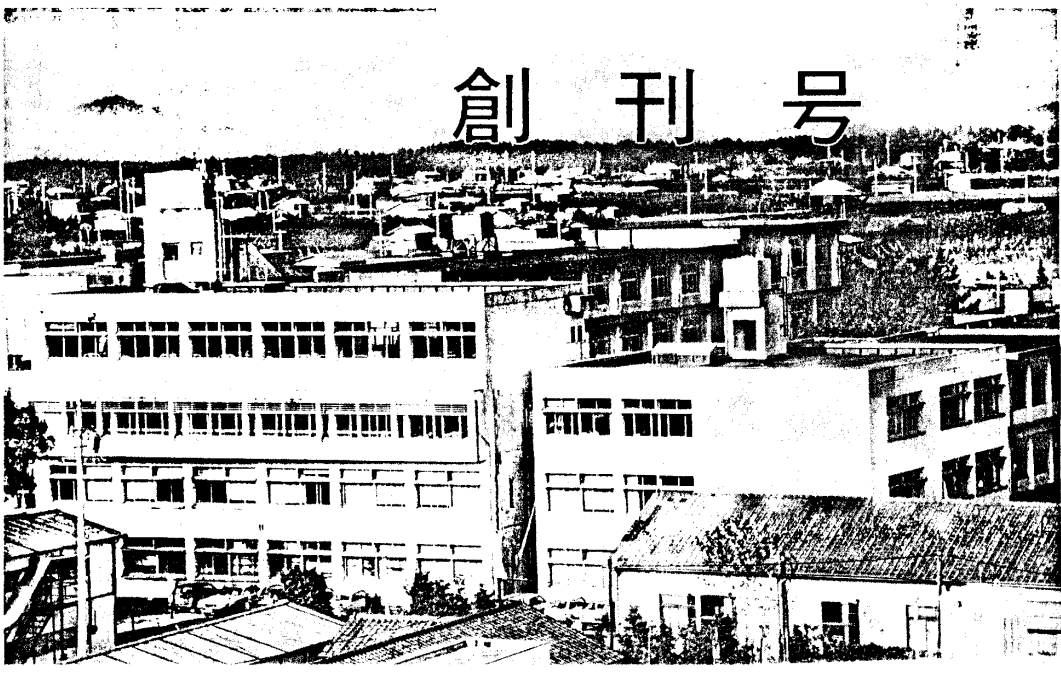




発行所
学校法人
聖隷学園
浜松市三方原町3453
電話(0534)86-5311
郵便番号 433
発行責任者 長谷川 了



創刊号

聖 句
「行って、『天国が近づいた』と宣べ
伝えよ。病人をいやし、死人をよみがえらせ、らい病人をよきよめ、悪霊を追いつせ。ただで受けたのだから、ただで与えるがよい。」
(マタイ一〇章七―八節)



創刊によせて

理事長 長谷川 保

敗戦敗走の中で国民は絶望と飢餓に覆れはて居た。その時我々の心に二道之光となり、やがて炎となつて燃え上つたのはキリストの福音であり、また三十二年も前に内務三先生が紹介した理想国デナムクであり、賀川豊彦先生が十年前に紹介したスウェーデンやスイスの資源をもたない小国であった。デナムクもスウェーデンも敗戦のため領土の大半を奪われた小国であり、キリスト教によって「外に失いたるもの内に得ん」を宣言として理想国を建設し、不戦繁栄の民主国をつくり上げた国であった。かくて、清州教会の同志は、一致協力して、「スウェーデンの如くデナムクの如く」とデナムクの国民教育学校とスイスの時計学校になつて、キリスト教精神と教育によつて、平和日本を再建しようとして遠州キリスト学園を創設した。敗戦間もない一九四六年のことであった。遠州キリスト学園はまもなく看護学校となり、それから三〇年、絶望の戦後、世界初の新経済圏となり、遠州キリスト学園は聖隷学園看護学校、浜松衛生短期大学に発展し、日本有数の看護学校となつた。然し、日本が経済的大国になつたが、その国民の精神生活は



遠州教会 三方原 礼拝堂

道標として

牧師・教授 西村 一之

聖隷学園の歴史は遠州キリスト学園の創始(一九四六年)に原を築する。旧兵舎をもらひうけて校舎に改造し、完成をみたのが一九四九年である。場所はいまのわかば保育園の庭であった。当時、周囲は小松、雑草のみが生える原野であった。教育の実際は翌年から始まったが、筆者は当初からその一端に参画した。学園長はいま自選の日々を過しておられる藤原三三先生である。六三三制に切替わつた。当時、生徒であり、いまも聖隷学園の職員として働いていられる人安富富子、鳥居 暁のほかに長谷川、地代久子など諸氏がいる。こゝまでは歴史である。三年後、当学園は聖隷看護専門学校に発展、聖隷看護専門学校を目的とするところになつた。以後、わが部の一般看護教育の理念と制度をならみながら、たえずその一歩前を歩き続けてきた。私立の二事業としてよく持続し前進した。その原動力はなにか。校舎の使い方のあとをたどりながら、わが部が「教育の発展の中心」として生きてきた。寄宿舎が「氣質の養育の家」を兼ね、取って建つて、扉間の教室は敗戦後から翌朝まで宿舎の馬飛び、レスリングをする体育館になつた。加えて、礼拝堂のなかで清州教会のために七日間、日曜日ごとに教室は「神の家」になつた。その朝、看護婦生徒会員は礼拝堂に集結し、そのために心をこめて清掃、整頓に力をあわせた。また、施設の職員が集まるためにいつても集會場になつた。その際、各自が座ぶとんを持参した。職員は結成式、大内兵衛その他の講演会、いく多の研修会、ディナー、ニッセンなどの歓迎、送別会など、特別養老ホームの創設のために折衝会をかねつつ正式の委員会を開いたのも教壇である。その校舎は聖隷高校の設立(一九六六年)とともに解体され、いまの講堂として修築されて残っている。校舎は右の履歴が示すように、「教育」「礼拝・伝道」「福祉」の推進の場として聖隷福祉事業団の発展のために重要な役割を担つてきた。いま、聖隷学園は本分として立ち立っている。しかし、これを創設した理想上の背景と目的、それもまた明白である。これから不変である。聖隷福祉事業団がよつて立つ「イエス・キリストの教えと精神」にものがある。イエス・キリストが生徒をかけた使徒に三つあつた。一は「イエス・キリストだけがなした人間の罪(自利心)を救済」と死からの、永遠の救いである。世にキリスト教と呼んでいるものの本質はこれである。その真実と確信の体験を人々に伝えることを「伝道」という。二は「この宗教を道徳心を基本にして、人生を清純に使命の自覚をもつて生きる人間を『教育』することである。三は、心身におけるもろもろの病苦を直し、それがまた人生の幸福を直さなくすることである。もとり医学上の知識・技術は高であつたが、その愛惜の心は高であつた。いわゆる『福祉』の精神はこれにもつづく。「聖隷」の名のもとに行われていた伝道と教育と福祉の仕事は、われわれの独得でも断つてもなく、その原型はイエス・キリストにある。永い歴史を貫いて内外の先人たちが担つてきた伝統を受継ぐも

学園の沿革

- 昭和二十一年 遠州看護専門学校開設
- 二十七年 聖隷看護専門学校完成
- 二十八年 寄宿舎建設
- 二十九年 第一期生卒業
- 三十三年 看護実習室、教務室増設
- 三十六年 校舎を聖隷看護専門学校と改め、遠州看護専門学校開設
- 四十一年 学校法人聖隷学園設立、衛生看護科、聖隷学園高等専門学校設立
- 四十二年 高等短期二期生完成
- 四十四年 聖隷看護専門学校第十五回卒業式をもって閉校
- 四十七年 衛生看護科第一回生卒業、生徒寮(女子)寮完成
- 四十八年 第三期増設工事完成
- 四十九年 短大に三制制新設、第一衛生看護科(三年制)増設、高等専門学校衛生看護科が普通科に移行
- 五十年 びこば食堂及び食堂を撤去してグラウンドを拡張、養老食堂及び売店を開設
- 五十一年九月体育館兼講堂竣工式挙行

満十歳の聖隷学園

とその母胎

高等学校校長 西村ミサ

聖隷学園は満十歳の歩みを終え、聖隷福祉事業団の中に独立して教育事業が形を成した。昭和十四年(一九四八)である。その歴史は戦終後の全期に及ぶことになる。医療を主軸として人々に仕えんとし、教育事業はその片隅で細々と続けられてきたのである。

臨床指導から 真の看護とは

短期大学学科長 佐々木ノブ

長い夏休みが終って学園には若さ溢れ、いさぎよく働いてきた。しばらくの教室で学生の視線を浴び、身体前部の実習を、あるいは病院アルバイト等の体験を通して成長を遂げる若い力が伝わってくるのである。

名を呼ぶ

短期大学後援会長 宮崎洋

久方ぶりに一月外科の入院生活を歩かせるのは、手術すれば治るといふことが、大変な苦痛を伴うことになり、格別な不安を感じたことなしに手術室に運ばれた。手術をうけるかもしれないが、不安の時、若し時、自分の名を呼ばねばならない。鉛のように重い心を、かと思わされた。

PTAの責任

高等学校PTA会長 桂田忠夫

学校法人聖隷学園が創立十周年を迎えられた事について私は、PTA会長として、むしろ、この中Mは一人として本心に燃れたい。



1946年(昭和21年)遠州基督教学園礎式挙行 聖隷保業園敷地内に校舎2棟建設、主に三方原開拓農村子女が入学し、普通教育及び農業技術教育を受ける。

ある患者と看護婦とのやりとりを思い出した。人の名を呼ぶことは、苦しいことには、真実に溢れた心のこもった、真実に溢れた交わりがある。この世の中は、切実な味を、六人の病室、一同が異口同音に訴え、感動をうかせる。この世の中は、見えていない。しかし、聖隷学園の歴史は、後世への聖隷の立っている地を掘りかえして、聖隷と語るとき、何ものも、見えていない。しかし、聖隷学園の歴史は、後世への聖隷の立っている地を掘りかえして、聖隷と語るとき、何ものも、見えていない。

- 役員名(抜粋)
聖隷学園浜松衛生短期大学後援会規約及び役員名(抜粋)
役員: 本会は本校創立の精神的基礎を築き、会員相互の協力により、本学前期による教育研究の振興をはかり、併せて会員相互の教養の向上をはかることを目的とする。

講堂(礼拝堂)兼体育館の建設はじまる

事務局長 長谷川 丁

聖隷学園は、この講堂兼体育館の建設について、昭和五十三年(五十四年に助産課程の設置)と昭和五十五年(六十一年に高等学校の増設増員)と共に短期大学に保育・福祉関係科の増設の計画をもっています。

講堂兼体育館の建設は学内を中心にしてこの二年間真剣に取り組んでまいりました。それは昭和四十六年(四十八年に学園が財政上教育上の問題で窮乏に陥るか、淘汰されていくかもしれないという危機感の中で、学園の教職員が一丸となって高橋勉大の増設増設を立の基礎を作ったのであります。

この自立、独立して行く計画の最後のものとして、学園の教育の充実が必要不可欠であるとして、この講堂(礼拝堂)兼体育館の計画がありました。

計画が実現した。この講堂兼体育館は千五百人の学生・生徒が利用する前提で設計されていますが、このことは冒頭に書き添った設計図を御覧下さい。体育館であり、講堂でもあります。この講堂兼体育館の建設は自立自足するためのめくりくりともいえる重要な第一歩として、九月十六日に定礎式が無事に終わりました。神様に、そして熱い祈りと浄財を捧げて学園を支えて下さった多くの方々に心から感謝申し上げます。

聖隷学園は、この講堂兼体育館には多くの医療及び福祉施設があり、更に静岡県をこえて、兵庫県、三原県、山梨県、長野県等々全国各地から福祉施設、病院等の建設について相談を受けています。これはどのような理由からであり、この最大の理由は聖隷の創立の精神であり、この精神を培われた人材

人にあるといわねばなりません。理事長、長谷川保を中心とする創設者達が病にたれた人々、社会の谷間で困難に状況にある人々の友となり、泣く泣くとも泣き喜ぶ者ともになり、私欲を求めずひたひたに生き、この福祉を切り開いてきた生き霊が、彼等を感化し「聖隷」の心を備えてきた。そして、この精神、人材が社会から評価されたから施設を作ることには急務でありました。然しながら、日本の社会では、これらの施設を守り、対象者の真の友となる人は少ない。

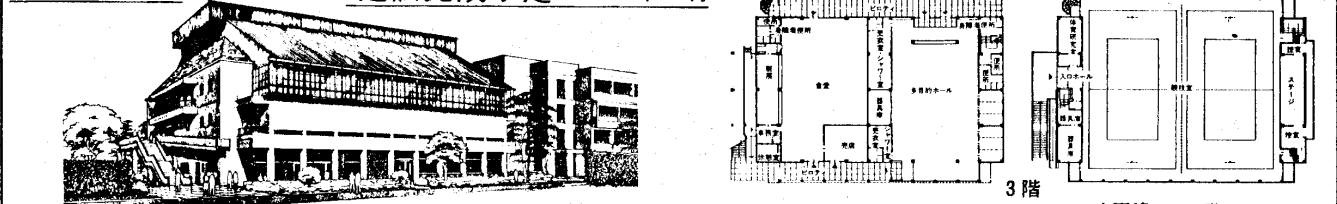
聖隷を創設して来た先達達が五年十年後に去っていくにつれて、この精神が願望と引きつらくなっていくという保証はどこにもありません。

今こそ聖隷学園は「聖隷」のこのを受けついでた人教育養成に真剣に取り組まねばならない。学園の使命と責任は今後益々重くなっていくと考えます。

この学園の教育の本質となる礼拝の場であり、体力養成の場である講堂兼体育館の建設は聖隷学園にとって、聖隷福祉事業集団にとって、きわめて意義深いものと考えます。



完成予想図 建設完成予定昭和52年1月



建設費用の概算		資金の調達計画	
建築費	147,500千円	日本私学振興財団借入金	97,100千円
設備・備品	21,050千円	静岡県私学振興会借入金	15,000千円
設計監理料	6,600千円	市中銀行借入金	25,000千円
整地・移転費	6,000千円	補助金・協力金	8,000千円
合計	181,150千円	寄付金	32,000千円
		自己資金	4,050千円
		合計	181,150千円

寄付者御芳名 (敬称略)		目録額	
島田幸一	千円	現在額	七、〇〇〇千円
島田幸二	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸三	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸四	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸五	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸六	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸七	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸八	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸九	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸十	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸十一	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸十二	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸十三	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸十四	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸十五	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸十六	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸十七	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸十八	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸十九	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸二十	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸二十一	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸二十二	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸二十三	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸二十四	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸二十五	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸二十六	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸二十七	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸二十八	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸二十九	千円	現在額	一、〇〇〇千円
島田幸三十	千円	現在額	一、〇〇〇千円

